

## シノド開かれる

大ローマ布教所長  
山口 英雄 Hideo Yamaguchi

シノド（シノドスともいう）とは *sinodo* と綴るが、カソリック用語である。それは教会会議、宗教会議を意味し、日本では一般に世界代表司教会議と訳される。シノドは通常定例会議と特別会議があり、1965年、時の法王パウロ六世（2014年10月19日福者に任命される）によって制定された。今までに定例会議は13回、特別会議は10回開かれている。今回は、特別会議が10月6日に開かれ、10月19日に幕を閉じた。2週間にわたって議論がなされたが、会議への参加者は、枢機卿をはじめとして神父におよび、総勢191名。内訳として、アフリカより42名、アメリカより38名、アジアより29名、ヨーロッパより78名、オセアニアより4名であった。さらに13組の新婚者が招かれたが、その一組は新婦がカソリック信者、新郎はイスラム教徒であった。

今回のシノドは特別会議であるが、議題は教会にとって難しい内容のものであった。62の議題があったが、そのうち3つは批准されなかった。それは議決の時、投票者の3分の2の賛成を必要とするからである。会議は使う言語によって10のグループに分かれて議論が展開された。191人はイタリア語、英語がそれぞれ3つのグループに、フランス語、スペイン語がそれぞれ2つのグループに分かれて、話し合いが行われた。

議題として、特に扱いが難しいものは、離婚者、再婚者、大家族、事実婚、同性愛者を、教会としてどうするかということだった。批准されなかった3つは、また来年の通常会議の俎上に乗せられることになっている。来年のシノドは10月14日から25日に開催されることが決まっている。議題は「現代社会における教会の召命と使命」である。

シノド開催に当たって、法王フランチェスコは次のように挨拶している。「全ての参加者が自由に自分の考えを表現することが大切である。シノドは聖ペトロと共になされ、聖ペトロの思いに従うことである。最終的には、私、法王が決定を下すのだが、自由に討議されることを望む。」

法王はイエズス会員であるが、イエズス会の総統アドルフ・ニコラスは次のように述べている。「現法王は精霊をよく聞く人だ。聞くことの神学を多くの場で話している。我々は世界の声を聞かねばならない。そうでなければ、世界は我々の声を聞いてくれないだろう。」

シノド統括の責任者の枢機卿ロレンツォ・バルディセーリは本質的なことを述べている。「宗教、キリスト教は歴史そのものであって、イデオロギーではない。現在の家族に関する思いは、33年前の「*familia consortio*」の時と比べ変わって来ている。歴史なくして、我々はどこに行くのかわからない。もし、我々が歴史を無視するなら、2千年前にいることになるのだ。法王は扉を開けたいのだ。今まで閉まっていた扉を開けたいのだ。」

教会は全ての人に解放されているのだ。イエスの時代でも扉は常に解放されていた。娼婦にも解放されていたのだ。だから、今の世にあって、全ての人に、つまり、離婚した人にも、再婚した人にも、同性愛者にも解放されるべきだというのが法王フランチェスコの考え方である。

シノドも終盤に近づき、大体の反応が掴めるようになった。

10のグループに分かれて審議が展開されていたが、そのうち2つのグループが離婚して再婚したカップルに聖体拝礼を許すことに反対している。さらに多くは同性愛者について議論することもなかった。しかし、オーストリア・ウィーンの枢機卿クリストフ・シェンボーンは「最終報告書ではその人たちの受け入れについて言及するだろう」とコメント。穏健派の枢機卿フィローニは「教会は開かれた家」と述べている。シノド会議を結論的に言えば「教会は全ての人を受け入れる家でなければならない。拒否される人は誰もいない」ということである。

今回のシノドでは、予想されていたように、次の3点が批准されなかった。

1) 秘跡と離婚者、2) 精神的聖体拝領、3) 同性愛者である。特に「同性愛」については問題が大きい。アフリカの神父、東ヨーロッパの神父、アメリカの神父の多くは反対の投票をしたが、教会を彼らには解放しないということは法王の意見に対立するものである。しかし、来年のシノドでは、法王の意図するところで批准されるだろうと推測されている。法王の考えに反対している高位聖職者の多くは現在の要職を離れることに決定しており、来年はその発言力も弱くなるだろう。

今年の会議の内容は議事録として全て書き出され、来る1年間各地の教会で議論を積み重ねるようというのが法王の希望である。そして、この1年でこれら反対の神父達の立場も変わって来ることだろう。

## 性的小児愛症で逮捕者が出る

カソリック内部で広がっていた神父たちによる未成年者に対する性的小児愛症で、初めて逮捕者が出た。これはポーランド出身のヨゼフ・ヴェソロウスキー元大司教で、ドミニカ共和国へ、ヴァチカン大使として2008年より2013年まで赴任していた。年齢は66歳。現法王フランチェスコは彼の逮捕にオーケーのサインを出した。彼はヴァチカンの国籍を持っているためにヴァチカン内に軟禁されている。昨年大使の任を解除されたが、それと同時にカソリック内部での立場も全て剥奪されて、一信者となった。裁判は未だ始まっていないが、ヴァチカンの城壁の外に逃げ出さないように監視されている。

ヴェソロウスキー元大司教の外交官としてのキャリアは長い。ヴァチカン司法局は2つの点で糾弾している。一つは小児わいせつ事件、もう一つはボルノグラフィー、テープ、ビデオの所持者として糾弾している。彼はドミニカ共和国、ポーランドからも同じような罪で糾弾されている。特にドミニカ共和国では、8歳から17歳までの4人の犠牲者が公表されている。彼はヴァチカン大使としてあちこちの国を廻っている。ボリビア、中央アジア（カザフスタン、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタン）、それ以前には南アフリカ、コスタリカ、日本、スイス、インド、デンマークと廻っている。現在、彼の他に、チリ人のマルコ・アントニオ・オンデネス、ペルー人のカビーノ・ミランダ・メルガレホなども調べられている。

この2人はヴェソロウスキーと違ってヴァチカンの国籍を持っていないため、教会法による裁判は行われるが、ヴァチカンでの刑罰裁判は行われない。